

新田地区農村環境保全組合〔栗原市〕

地区概要	取組面積：142.1ha（田142.1ha） 資源量：水路 46.8km 農道 6.6km ため池 一箇所
令和3年度交付金	農地維持支払交付金 4,263千円 資源向上支払（共同活動）交付金 2,558千円 資源向上支払（施設の長寿命化）交付金 1,815千円
地域の概要	当活動組織は、栗原市東部の旧志波姫町の標高25m程の平坦な水田単作地帯にあり、伊達藩二代忠宗公の時代（1640年頃）に開墾されたことから「新田（しんでん）」の地名が誕生したと伝わっており、活動区域は新田行政区全域を対象としています。 地区中央を国道398号が東西に走り、東端をJR東北新幹線が南北に縦走り、地区東側に近接してJRくりこま高原駅があることから、農業者以外の世帯も多く居住するようになり、現在は農業者78戸、農業者以外75戸と半々の構成となっています。
取組みの概要	当組合は平成19年度の初年度から、農業者は勿論のこと、農業者以外の世帯からも活動への理解と協力が得られて、地域のほぼ全世帯が活動に参加しています。 活動展開にあたっては、より広範囲かつ効率的に行うため、地区自治会、JA実行組合、婦人部、老人クラブ、小中学生及び小中PTAなどの地域活動を担ってきた諸団体も団体構成員として活動に加わっており、団体代表は組合役員としても、それぞれの立場で活動計画の策定にも携わっています。
取組みによる効果	地域の農道や農業排水路は、農業者以外の居住世帯の生活道路や雨水排水路として利用している現状から農業者以外の方々も活動に積極的に参加するようになり、同じ地域に居住する職業の異なる幅広い年代の方々の交流と親睦を深める場になっています。 同時に地域の農業施設への日常的な目配りや愛着度が深くなっていき、それが施設の長寿命化の基本だと思われます。
今後の課題	事務局と会計役員の継承（若返り）は何とかなったのですが、活動参加者の高齢化と後継者不在が顕在化してきており、今後の大きな課題です。 これは当組織だけの問題ではないので、他活動組織とも解決策等を協議することも必要なのではないか、とも考えています。
その他	・組合のホームページを作成して、活動の様子を逐次書き込み、パソコンや携帯電話で何時でもどなたでも閲覧出来るようにしています。アクセスが結構数あることから、今後は全国の活動組織の方々と情報交換出来るようにしたいと考えています。興味のある方は「新田地区農村環境保全組合」でアクセスして覗いて見て下さい。 ・平成19年度から取り組んできた「ヘイケホタル復活活動」は、その成果としてホタル水路周辺で3、4年前程前から「ヘイケホタルの飛翔」が見られるようになりました。子供達に故郷の小川でホタルが翔んでいた記憶を残して貰えるようにと、今後も活動を継続してコロナが収まれば再び「ほたるまつり」を行いたいと考えています。



農道・水路一斉草刈作業



ふれあい花壇春期植替作業



施設点検



ほたるまつり学習会



ほたる水路草刈作業



生き物調査



ほたる水路遊歩道除草作業



用水路泥上清掃作業